

柳營日記記

延寶七 己未年

七月

朔日

辰下刻御黒書院 出御如例御一門方 御對顔畢 御白書

院 出御諸大名衆御礼也

參勤

金馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

泥障二懸

銀馬代

時ふく三

御暇

時ふく五羽折

時ふく三羽折

時ふく三羽折

菓路拜願御礼

進物

一懸一荷

銀馬代

二種一荷

御暇

金十枚

時ふく武羽折

時ふく武羽折

宇治場

御徒頭

能勢宗十郎

宇治

櫻井宗恩

御代官

松村吉左衛門

土御門 極藤使者

白井右京

大津町人

坂本弥七

御暇

時ふく武

時ふく武

時ふく武羽折

時ふく三

島山下総守京都堀 御目見

三日 無事

四日

今朝評定所式日寄合大久保加賀守出座也

雲雀五十ツ

上栴内藤上野介

兩典

荒川出羽守

尾黄門

青山貞義守

水宰相

甲府中将殿婚姻之儀付用向可相談旨大久保右京亮戸田備

後守へ老中傳之

五日 無事

六日

如例年御三人方御譜代大名より鯖代進上之但松平大藏大

輔は差合付鯖代進上無之

南部大膳大夫が初銚献上之

千代姫御方へ雲雀五十被遣之

松平越後守が銚献上之

七日

辰下刻御黒書院 出御 御刀 朽木和泉守

館林宰相殿

甲府中将殿

尾張殿

水戸殿

紀伊中将殿

水戸少将殿

右出座 御對顔過 大廣間渡御之刻高家衆詰衆諸番頭諸

物頭諸役人諸奉行此外並居一同 御目見則大廣間にて諸

大名御礼事畢 入御也

松平加賀守

同 相模守

同 大膳大夫

伊達遠江守

酒井左衛門尉

右煩 付出仕無之

孟羅盆 付日光へ松平与右衛門可被遣旨

八日

禁裏 以宿繼初銚御進献之

九日

御旗本之面々跡目被 仰付候

池田帯刀組

石見守甥養子

次郎兵衛子

石丸数馬

横田美之助

内記養子

溝口久助

御目付

次右衛門子

安藤大膳

御留守番

平左衛門三男

大久保勝之助

御後頭

新五左衛門養子

松平新五左衛門

本多備前守組

小十人頭

權三郎子

水野長門守組

五ノ丸御守番

弥兵衛子

御船手

八郎兵衛子

同人次男

同人次男

坂井権兵衛

高千代之内

八百石

同人次男

松平八郎右衛門

高千代之内

八百石

御船後守組

同人次男

津田分之助

高千代之内

七百石

御船奉行

右同人次男

西尾甚之助

高千代之内

五百八十五石余

本多備前守

大久保宗直

齊藤庄左衛門

高千代之内

五百八拾七石

清水傳左衛門

清水傳左衛門

清水三郎右衛門

兼松亦四郎

内藤上野介組

七内養子

戸田四郎右衛門

桑山信徳守組

弥三郎子

兼松亦四郎

松平源十郎

大久保宗直

前田鞆負

大久保宗直

松平源十郎

石丸数馬

横田美之助

溝口久助

安藤大膳

大久保勝之助

松平新五左衛門

水野権右衛門

坂井権兵衛

津田分之助

西尾甚之助

西尾左大夫

齊藤庄左衛門

清水傳左衛門

清水三郎右衛門

兼松亦四郎

戸田四郎右衛門

桑山十左衛門

前田鞆負

松平源十郎

大草長十郎

小林市十郎

伊東市之丞

駒井伊織

御材木奉行 六郎左衛門子  
武田越前守 大久保山城守 權之介子  
水野周防守 五郎左衛門 權之介子  
酒井伊豫守 次郎右衛門子  
三浦清左衛門 長右衛門子  
八人保左衛門 忠太郎子  
八人保左衛門 新三郎 養子  
新三郎 伊兵衛 上方御代  
元大御守 長左衛門 養子  
大久保左衛門 安左衛門 養子  
大久保右衛門 武兵衛 養子  
元大御守 平藏 養子  
元大御守 權右衛門 養子  
御恩預 權右衛門 養子  
三浦清左衛門 庄左衛門子  
坂市市正 八郎右衛門 養子  
元小十人 鳥居門之助  
三嶋清左衛門 半右衛門子  
元小十人 赤井喜四郎  
元小十人 赤井喜四郎

十日  
老刀五千石  
堀田備中守  
松平因幡守  
石川美作守  
右召之老中被 仰付之御加増被下之  
右若年寄被 仰付之御加増被下之  
右之通於 御座之間御直<sup>二</sup>被 仰付之  
雲雀三十宛被下之 松平相模守 松平左京大夫 松平讃岐守 細川越中守  
上使御使番 松平大膳大夫  
十一日  
上使大久保加賀守  
水戸少將殿<sup>江</sup>  
右御國元<sup>江</sup> 御暇被遣之  
播州之内御領之所々遂檢地 付脇阪中務少輔家来<sup>二</sup>被下物  
銀三十枚時ふく三羽折  
本庄瀬兵衛  
銀十枚時ふく三羽折  
伊奈八兵衛  
同断  
真鍋弥一右衛門  
銀十枚時ふく式  
関口作兵衛  
同断  
昨日老中若年寄被 仰付候趣所々へ次飛脚達之  
紀黄門へも宿次を以達之  
十二日  
於評定所式日寄合美濃守出座也  
御座物備前守代金三十枚  
水戸少將殿  
右昨日以 上使初御國元<sup>江</sup> 御暇被遣候為御礼御登城  
於西湖之間御料理被下候過<sup>而</sup>於 御座之間 御對顔拝領  
之右於 同所  
水戸殿  
右 御對顔是<sup>ハ</sup>少將殿御礼<sup>ニ</sup>付<sup>而</sup>也  
已后刻御黒書院 出御継目所替御礼  
金三十枚 御加増所替 本多平八郎  
時限二十 御礼 松平日向守  
金二十枚 同断 本多出雲守  
時限十 同断

金五枚 家督之  
時服三 御礼  
金馬代 隠居之  
御礼  
代金七十五枚 御礼  
正宗御脇指  
右は為遺物進上之  
青江恒次御刀代金十五枚  
御香合抽子  
右は隠居<sup>ニ</sup>付進上之  
黄金式枚  
一種一荷  
右為生魂御祝儀進上之  
御暇時ふく五羽折  
同断  
水少將家来  
御部備後守  
時ふく五  
四羽折  
三羽折  
同断  
近藤儀大夫  
赤林三郎兵衛  
穂坂八郎右衛門  
中山市正  
水野右衛門大夫  
御 兩 殿<sup>ハ</sup>  
加々爪甲斐守  
本多中務大輔  
同 甲斐守  
同 加々爪土佐守  
御部備後守  
同 甲斐守  
同 加々爪土佐守  
同 甲斐守  
同 加々爪土佐守

右は躑躅之間或御臺<sup>二</sup>所廊下<sup>ニ</sup> 跡式被 仰付之  
雲雀五十ツ 被遣之  
上使中根大膳守 紀 中 將  
同 五十ツ 同部隠岐守  
御材木奉行 六郎左衛門子  
武田越前守 大久保山城守 權之介子  
水野周防守 五郎左衛門 權之介子  
酒井伊豫守 次郎右衛門子  
三浦清左衛門 長右衛門子  
八人保左衛門 忠太郎子  
八人保左衛門 新三郎 養子  
新三郎 伊兵衛 上方御代  
元大御守 長左衛門 養子  
大久保左衛門 安左衛門 養子  
大久保右衛門 武兵衛 養子  
元大御守 平藏 養子  
元大御守 權右衛門 養子  
御恩預 權右衛門 養子  
三浦清左衛門 庄左衛門子  
坂市市正 八郎右衛門 養子  
元小十人 鳥居門之助  
三嶋清左衛門 半右衛門子  
元小十人 赤井喜四郎  
元小十人 赤井喜四郎

阿部勘十郎 一  
神谷作兵衛 二  
篠原彦十郎 三  
今村角大夫 四  
大場源八郎 六  
久保田十左衛門 七  
田邊九兵衛 五  
高野甚之丞 八  
赤佐又七郎 九  
佐治半兵衛 十  
下野源太郎 十四  
伊藤五郎左衛門 十五  
宇野金五郎 十一  
湯川喜雲 十式  
鎌田庭雲 十三  
同 五十ツ  
同部隠岐守  
御材木奉行 六郎左衛門子  
武田越前守 大久保山城守 權之介子  
水野周防守 五郎左衛門 權之介子  
酒井伊豫守 次郎右衛門子  
三浦清左衛門 長右衛門子  
八人保左衛門 忠太郎子  
八人保左衛門 新三郎 養子  
新三郎 伊兵衛 上方御代  
元大御守 長左衛門 養子  
大久保左衛門 安左衛門 養子  
大久保右衛門 武兵衛 養子  
元大御守 平藏 養子  
元大御守 權右衛門 養子  
御恩預 權右衛門 養子  
三浦清左衛門 庄左衛門子  
坂市市正 八郎右衛門 養子  
元小十人 鳥居門之助  
三嶋清左衛門 半右衛門子  
元小十人 赤井喜四郎  
元小十人 赤井喜四郎

十三日  
於 御座之間御老中不残如例御帷子拝領之  
御帷子三内はた織一輪式  
酒井雅楽頭  
同断  
式内はた織一輪一  
稲葉美濃守  
大久保加賀守  
土井能登守  
堀田備中守  
雲雀被下之 松平撰津守 松平出雲守 松平刑部大輔 松平播磨守  
宗 对馬守 伊達遠江守 藤堂和泉守 松平大和守  
松平出羽守  
十四日  
金三枚 御暇  
羽折三枚  
右は富士根方論所見分御暇<sup>ニ</sup>付被下之  
同断 西山六郎兵衛  
日根野長左衛門

(金武二  
羽折)

御暇

右は甲州信州論所之山為見分被遣候御暇被下之

梶 四郎兵衛  
内藤弥一郎

十五日

如例年出仕無之

孟蘭盆<sup>二</sup>付上野

御名代

増上寺<sup>江</sup>右同断<sup>二</sup>付

御名代

右両山<sup>江</sup>盆料被遣之

稲葉美濃守

増上寺方丈

日門へ

凌雲院

右は盆料被遣之為御礼登城謁老中也

増上寺後者

白玄

圓岡

觀理院

信解院

寒松院

常徳院

東漸院

時ふく武ッ

十六日

駿府御目付代

大関勘右衛門

右被仰付之且亦米津周防守上屋敷被下之旨被仰出之

十七日

前出

大久保右京亮

戸田備後守

戸田伊勢守

岡野美作守

右は甲府中将殿婚姻之儀用等可相談之旨老中被傳之

右之趣被仰渡之

九日也

坂井八郎兵衛次男  
松平八郎右衛門

右式百石分知被下之取来三百俵之内式百俵上り御切米百俵都合三百俵被成下之

九日也

右式百石分知被下之取来三百俵之内式百俵上り御切米百俵都合三百俵被成下之

九日也

右分知百石被下之取来式百五拾俵之内百俵上り御切米百五十石都合式百五十石被成下之右は去<sup>ル</sup>九日被仰渡

之

今朝紅葉山

御名代

大久保加賀守

十八日

時服三

御暇

羽折

右は御國元<sup>ノ</sup>使者差上之是<sup>ハ</sup>久世大和守卒去<sup>ニ</sup>付<sup>而</sup>也則御暇被下之

歸國之御礼

森源五右衛門

右献上之

法皇<sup>江</sup>

初鮭

十八日也

右以宿繼御進献之

戸田越前守

右以宿繼如例年被遣之

右兩条共<sup>ニ</sup>昨日之事也

雲雀三十ッ

松平薩摩守

松平中務大輔

松平飛騨守

松平信濃守

有馬中務大輔

松平肥前守

松平淡路守

松平新太郎

森内記

松平紀伊守内室

館林殿御簾中

尾中将御簾中  
水少将御簾中

廿日

今日雨天<sup>ニ</sup>付紅葉山御参詣御延引

酒井雅楽頭

日光御名代掃

松平与右衛門

右於御座之間御目見

廿一日

河州之内御領所々遂檢地<sup>ニ</sup>付本多隱岐守家来へ被下物

銀三十枚時ふく三羽折

中條權右衛門

高橋彦右衛門

川辺仁左衛門

宇都木惣左衛門

西村又左衛門

井上太左衛門諸大夫被仰付之

廿二日

於評定所式日寄合大久保加賀守土并能登守堀田備中守

縁組被仰付候面々

織田山城守娘

高木肥前守<sup>江</sup>

堀田備中守養娘

阿部長吉郎<sup>江</sup>

岡部内膳正養娘

堀三四郎<sup>江</sup>

松平志摩守娘

新庄主殿<sup>江</sup>

毛利日向守娘

井上筑後守<sup>江</sup>

井上筑後守妹

坪内左門<sup>江</sup>

梁田隱岐守娘

内蔵介子  
筒井弥十郎江  
石川彦五郎娘  
甚兵衛孫  
安西又助江  
堀田五郎左衛門娘  
加藤佐兵衛江  
三好備前守娘  
吉左衛門子  
渡邊兵九郎江  
小出甚左衛門娘  
加藤平八郎江  
甲州殿衆  
諏訪備前守娘  
四郎右衛門子  
神保三郎兵衛江

右之通老中被仰渡之

雲雀二十ツ被下之  
小笠原遠江守 酒井左衛門尉 榊原式部大輔 戸田左門 松平越中守  
本多下野守 真田伊豆守 松平日向守 松平周防守 岡部内膳正  
本多出雲守 内藤紀伊守

廿三日 無事

右昨日諸大夫被 仰付丹波守と改名

井上太左衛門

廿四日

辰下刻紅葉山両 御佛殿江 御參詣老中不殘御先江  
御供 松平因幡守 石川美作守  
御先立 酒井雅楽頭 御刀 内藤上野介 御沓 渡邊安藝守  
尾黄門 水宰相 紀中将陪拜 方丈 種雄 奉迎  
豫參 雅楽頭 美濃守 加賀守 土井能登守 堀田備中守

廿五日 無事

廿六日

井上相模守娘  
松平伊豆守江

右は昨七ツ時婚礼相調

雲雀二十ツ

本多飛騨守 井伊伯耆守 諏訪因幡守 真田伊豆守 松平伊賀守  
西尾隠岐守 植村右衛門佐 松平對馬守 松平佐渡守

雅楽頭

美濃守 加賀守 能登守 備中守

御暇時ふく武

松平市右衛門

廿七日

本院江

初蛙

右宿つきをもつて御進献之

酒井河内守へ雲雀二十被下之

松平大隅守參府ニ付 上使加賀守

廿八日

辰下刻御表江

出御月次御礼 御目見

初而一同御礼之面々

豊嶋三十郎

松村左衛門

鈴木九八郎

右鳥目百疋前置之

右は為隠居進上之

先頃御役替御加増之御礼

土井能登守

堀田備中守

松平因幡守

石川美作守

豊嶋權之丞

松村吉左衛門

鈴木八右衛門

家督

本多隠岐守

本多織部

本多兵部少輔

小笠原土佐守

銀馬代らうそく武箱  
（らうそく千挺  
白鳥二  
白鳥二  
銀馬代  
銀馬代  
銀馬代  
松平筑後守  
佐竹主殿  
佐竹主殿  
同入  
本多隠岐守家來  
本多登之助  
本多伊織  
本多二郎右衛門

京都番  
久保加賀守

德勝院  
御代官權之丞子  
豊嶋三十郎

初而  
島目ツ  
松村佐右衛門  
鈴木九八郎

水戸殿が初蛙被献之

廿九日

松平因幡守  
石川美作守

右於 御前御鷹之雲雀二十 拝領之  
御暇時ふく三  
佐竹右京大夫使者  
佐竹主殿

本多隠岐守 阿部對馬守 阿部美作守 永井信濃守  
安藤對馬守 土屋相模守 青山和泉守 井上相模守  
板倉石見守 朽木伊豫守 松平備前守 松平山城守  
牧野因幡守 土井兵庫頭 永井伊賀守

雲雀二十ツ  
諸衆奏者番  
寺社奉行

本多織部  
本多兵部少輔

小笠原土佐守

御暇時ふく三

分知

隠居

參府銀馬代時ふく五

柳營日記記

延寶七己未年

八月

朔日

辰后刻御黒書院 出御御刀 酒井老殿守

御両殿御出席 御對顔御白書院江 出御御一門方出座

御對面畢而大廣間江 渡御之刻

高家  
詰衆

諸番頭

諸物頭

諸役人

諸奉行

右其外並居一同 御目見則大廣間江 御着座諸大名御礼

二日 無事

土井能登守

堀田備中守

松平因幡守

石川美作守

右は去レ二十八日 御前において御加増之所附御書出頂戴

忝平丹後守

右國元に有之息頃日死去

三日

今日御誕生日二付殿中伺公之面々御祝之餅御熨斗御酒被

下之

禁裏江

初鶴

右宿繼をもつて御進献之是は松平陸奥守献上之鶴也

一新院御所江

初鮭

右以宿繼御進献之

銀五百枚  
羅紗十間

松平大隅守

右雖為參勤依病氣名代嶋津甲斐守を以進上之

丹羽若狭守

右は在着二付為御礼本山内記を以進上之於松之間謁加賀

井戸十右衛門事本多平八郎へ福島領為引渡可被遣旨

市川孫右衛門事日光正遷宮御用二付彼地へ可被遣旨

御暇時ふく武

長島弥次兵衛

茶屋四郎次郎

同 小四郎

同 時ふく武

井戸十右衛門

右は福島領為引渡可被遣之旨支度可仕之旨被 仰渡之

市川孫右衛門

右は日光正遷宮之節御用有之二付可被遣旨被 仰渡之

今日評定所式日寄合美濃守能登守備中守出座

御暇時ふく武

本山内記

丹羽若狭守使者

高殿院様御祥月 付上野

御名代

大久保加賀守

東照宮御縁起之事日光御門跡被興隆依令周掃園工備住官具慶

為御褒美金貳百兩被下之

六日

久世大和守遺領五万石無相違菓子出雲守へ被下大和守願之通

新田三千石猶子平九郎へ被下之

七日

久世大和守

右跡式無相違惣領出雲守被下之候并養子平九郎江新田

三千石被下之旨昨日於雅楽頭殿宅老中列座違之

已刻御黒書院 出御參府御礼有之

福嶋引渡御暇

金三枚  
時服二  
羽折

初御礼

井戸十右衛門

長左衛門子

日根野傳八郎

都筑半之助

服部百助

大井新九郎

新右衛門次男

播磨御代官六左衛門子

大坂在番場之

大御番

兩組中

右御礼畢而於山吹之間

大坂掃

御暇時ふく五十

御馬

松平薩摩守

出御前御馬拝領

御目見 入御也

右一同並居

大阪掃

切付五懸

銀馬代

雨降腰五

銀馬代

時ふく四

同 三

同 四

同 同

同 同

同 同

同 同

金三枚

時服二

羽折

鳥目百足

鳥目ツツ

銀馬代

鳥目百足

御暇時ふく武

土屋伊豫守こと令乱心長成之子有之といへとも一類共へも不申聞常に仕形非法其上終に 御目見不奉願段々不屈  
三付領知被召上雖然御代々筋目有之子主税被召出新規  
三千石被下之旨土屋相模守神尾若狭守<sup>五</sup>昨日被仰渡之  
山口半左衛門  
右跡式五千石被召上當年之半物成被下之旨明日土井能登守宅へ青山信濃守招之被 仰渡之

八日  
法皇 本院<sup>江</sup>  
初鶴  
右以宿繼御進献之  
奥州へ御馬買御用被 仰付

九日  
石尾七兵衛  
右は播州明石領<sup>江</sup>本多出雲守へ為引渡可被遣之旨被 仰渡候  
毛利日向守  
紀黃門使者  
正木郷右衛門  
小山田三右衛門

十日  
大坂在番帰  
三枝撰津守  
水野周防守  
右両組中御改有之  
明十一日為御慰御能依被 仰付  
上使内藤上野介  
館林 殿  
甲府中将殿  
御暇時ふく三  
時ふく武  
梅原七右衛門

十一日  
今日弥御能被 仰付出仕之面々早天々登 城也  
御刀 酒井老岐守  
辰后刻大廣間<sup>江</sup> 出御両御殿 御對顔畢 御能 上覽  
甲府館林殿拜見  
御能初 酒井河内守

御能組 式三番無之  
嵐山 金春 六左衛門 市郎兵衛 惣右衛門  
生田敦盛 八左衛門 源七 長右衛門 市右衛門  
二人祇王 將監 保生 六藏 吉右衛門  
降魔 九郎 太郎右衛門 新九郎 八郎右衛門  
住吉詣 將監 新之丞 市郎兵衛 七兵衛  
俊寛 同人 同人 清六 八郎右衛門  
飛雲 平右衛門 六右衛門 清五郎 市右衛門  
張良 庄左衛門 同人 大藏大夫 十郎兵衛 彦五郎  
二人袴 弥太郎 新右衛門 同人 甚兵衛

三人夫 八右衛門  
花折新発 弥太郎  
公事罪人<sup>傳</sup>右衛門 仁右衛門 間 弥三右衛門  
猿座頭 市郎兵衛 弥太郎 八右衛門  
称宜山伏<sup>長</sup>大夫 宗八 弥太郎 八右衛門  
今朝 出御以前大鞆打惣右衛門紫のしらべ 御免

十二日  
御役替  
稻葉一石見守  
三枝撰津守  
稻垣備後守  
池田帯刀  
岡部隠岐守  
森川撰津守  
滝川若狭守  
稻葉美濃守  
御備衆<sup>江</sup>  
大御番頭  
三枝撰津守跡正  
御書院番頭  
稲垣備後守跡正  
御書院番頭  
稻葉石見守跡正  
御小姓組番頭  
池田帯刀跡正  
同断  
岡部隠岐守跡正  
元香合  
元荒川 出羽守組番頭  
同断

前出  
慶<sup>江</sup>為御褒美金式百兩去五日<sup>二</sup>被下之  
昨日<sup>一</sup>出一太敷金春惣右衛門事崇調御免之旨一昨日御能之節稻葉美濃守申渡之  
一今日評定所<sup>三</sup>加賀守能登守備中守出座也

十三日  
御贈物大和国包水  
代金五十枚  
今日山王<sup>江</sup>御參詣依之右奥<sup>江</sup>入奥 御對顔畢 拜領之  
平川御通奥へ被為入 御對顔御至事有之  
右被差上之  
三種三荷 被献之  
館林徳松殿  
館林徳松殿  
館林宰相殿

右登 城於 御座之間 御對顔進上之是は徳松殿御宮參之為御祝儀也  
御小姓  
能勢撰津守  
右は出雲守と改名之  
徳松殿家来<sup>二</sup>被下物  
時ふく五  
同断  
時ふく四  
時ふく四  
時ふく三  
同断  
時ふく武ッ

秋浦大隅守  
曾我伊賀守  
黒田惣右衛門  
秋浦兵九郎  
押田三左衛門  
内藤十兵衛  
秋浦佐之助  
黒田三五郎  
金田与左衛門  
本庄太郎兵衛  
山口五郎兵衛  
吉田兼庵  
北村安齋  
いなほ  
かん  
山崎  
つほね  
さわの  
おち

右<sup>八</sup>腹中氣<sup>二</sup>付今日登 城無之  
一東照宮御縁起之事日光御門跡之興隆依令周版画師住吉具  
銀十枚ッ  
銀五枚

銀三枚  
# 六枚  
# 四枚  
表使一人  
抱守式人  
やとひ式人

十四日

跡式  
高武万五千石之内  
武万三千石  
武千石  
惣領  
木下淡路守  
木下宮内江  
金森内記江  
岡部隠岐守  
池田帯刀  
滝川若狭守  
森川撰津守

右組中御引渡有之

十五日

月次御礼如例御一門方其外 御目見也  
大坂加番御礼  
三宅能登守  
櫻井庄之助  
竹生四郎兵衛  
明石実栗本多出雲守へ引渡御暇  
石尾七兵衛  
駿府御目付御暇  
天草代官御暇  
小川藤左衛門  
初御礼  
武田杏庵  
武田杏仙  
稲垣数馬  
小島助左衛門  
加藤左兵衛  
村瀬伊左衛門

右御役被  
仰付之旨老中被仰渡之  
同  
同  
参勤銀馬代  
和紙三箱  
根矢百  
銀乱五十  
時ふく三  
箱者  
進物  
進物  
佐州へ参上  
尼ヶ崎屋  
曾根五郎兵衛  
安清  
又右衛門  
伯州米子町人  
大屋九右衛門  
近衛右府殿使者  
齋藤玄蕃助  
今度甲府殿へ婚姻御礼<sub>二</sub>付

十六日

時服五ツ  
同 四ツ  
同 三ツ  
同 二ツ  
銀十枚ツ  
銀五枚ツ  
銀三枚ツ

有馬宮内  
青山善兵衛  
一 禁裏江  
初菱喰  
右以飛脚御進献之  
三枝撰津守元組招殿中稲垣備後守江御引渡有之  
御暇時ふく式  
同断  
近衛殿使者  
齋藤玄蕃助  
毛利甲斐守  
使者

小笠原能登守  
内藤和泉守  
三宅能登守  
池田丹波守  
曾根五郎兵衛  
安清  
又右衛門  
伯州米子町人  
大屋九右衛門  
近衛右府殿使者  
齋藤玄蕃助  
江州筋御蔵入所々遂見分<sub>二</sub>付井伊玄蕃頭家来へ被下物  
銀百枚時ふく十  
同断  
戸塚左大夫  
内山太左衛門  
大久保弥五右衛門  
宇都木六之丞  
山田甚五右衛門  
岡次左衛門  
郷坂清次郎  
荻原勘大夫  
坪岡七郎兵衛  
後閑新兵衛

錦林殿家来

榎浦大隅守  
曾我伊賀守  
黒田惣右衛門  
黒田惣兵九郎  
押田三右衛門  
内藤十兵衛  
榎浦佐之介  
黒田三五郎  
金田与左衛門  
本庄太郎兵衛  
山口五郎兵衛  
吉田策庵  
喜多村安齋  
女中  
つな  
かん  
山崎  
局  
沢乃  
御乳  
表使老人  
抱守式人  
備式人  
一 今日紅葉山  
右被遣候今年は郡山為引渡被遣候<sub>二</sub>付被下之  
御名代  
大久保加賀守  
稲葉美濃守  
櫻井庄之介  
大坂御目付代  
竹尾四郎兵衛

十七日

時服二  
羽折  
右は氣色能今日<sub>レ</sub>登 城  
十八日  
右今曉<sub>レ</sub>老人宛御番相勤<sub>ル</sub>  
水戸殿  
三枝撰津守  
稲葉石見守

右姪之差合是<sub>レ</sub>家来松平求馬娘堀田宮内妻死去  
稲垣数馬へ御書院番引渡有之  
櫻井七之助竹生四郎兵衛石尾七兵衛大御番組頭一人へ

御黒印下知状被下

十九日

巳刻御黒書院 出御繼目御礼有之

駿府在番<sup>ニ</sup>罷越組<sup>并</sup>組中子供十人初<sup>而</sup>御礼

孫兵衛子

曾根孫介

彦兵衛子

天野金五郎

左平太<sup>子</sup>

柳原市十郎

求馬子

内藤左源太

源右衛門<sup>子</sup>

本多右近

喜兵衛子

長田人之丞

赤十郎<sup>子</sup>

赤井藤太郎

喜右衛門<sup>子</sup>

戸田長三郎

源二郎<sup>子</sup>

妻木熊之助

圖書子

安部治兵衛

右島目百足<sup>ツ</sup>前置之一同 御目見

右為遺物献上之

御刀保昌五郎代金十三枚

木下淡路守

右為遺物として進上之

繼目御礼

金廿枚

時ふく十

金十枚

時ふく五

武枚

老枚

時ふく五羽折

十羽折

六羽折

十

四羽折

御暇 初在所へ御暇

銀五十枚

時服四羽折

時ふく三羽折

同断

金五枚

時ふく三羽折

銀廿枚

半年代御暇

二種一寄

銀馬代<sup>ツ</sup>

繼目

金武枚<sup>ツ</sup>

求馬子

内藤左源太

本多右近

喜兵衛子

長田人之丞

赤十郎<sup>子</sup>

赤井藤太郎

喜右衛門<sup>子</sup>

戸田長三郎

源二郎<sup>子</sup>

妻木熊之助

圖書子

安部治兵衛

右為保養明日熱海<sup>江</sup>殆足之由

廿一日

溝口久助為繼目御礼以使者金馬代三枚献上之

御暇時ふく四

金武枚時ふく五

日光御用<sup>二</sup>付

鳥居瀬兵衛

市川孫右衛門

廿二日

昨日也

金武枚

時服<sup>二</sup>

右は日光御用<sup>二</sup>度迄被遣之候為御褒美被下之

今日評定所式日美濃守能登守備中守出座

西丸大手御門番土井周防守被 仰付阿部對馬守御暇<sup>二</sup>付代之

奥 堀田下總守稲葉石見守乗物御免

廿三日

右は日光 御宮御修復出来<sup>二</sup>付来月正遷宮依御用可被遣

之旨被 仰出之

紅葉山 御宮火番三浦志摩守被 仰付井上相模守代也

法皇 本院へ初菱喰御進覽宿繼

渡邊半右衛門

阿部對馬守 安藤對馬守 松平備前守 西郷若狭守

渡邊越中守 堀 飛驒守

水少將使者

鳥居頼兵衛

久世出雲守宗泰

加藤求馬

下川邊二郎大夫

富田外記

二郎兵衛<sup>子</sup>

横田甚左衛門

平左衛門<sup>子</sup>

津田分之助

駿府在番代

水野長門守

組頭

渡邊半右衛門

稻葉美濃守

酒井与四郎

御暇時ふく武羽折

右越中守養子民部向後表向<sup>ノ</sup>御礼可仕旨

松平内匠頭水戸へ御使可被遣旨

備中国御領所々遂檢地<sup>二</sup>付木下宮内家来へ被下物

銀三十枚時ふく三羽折

田中五郎右衛門

渡邊藤左衛門

多賀半右衛門

銀十枚時ふく武

小泉伊左衛門

同断

浅井助之丞

廿四日

増上寺

御名代

生越 龍總寺後住

大久保加賀守

武州毛呂 長宋寺 芳野

廿五日

水戸領内風雨損之覚

一領内田畑作毛高五萬八千百石余損毛之よし

一在々潰家八百六軒

一風折風反木三百五拾本余

一水除土手千五百五十六間

一郷道七百五十間

一溜池十五ヶ処

一堤四百八十六ヶ處

一土橋式百六十七ヶ処

右は先月廿二日之風雨<sup>二</sup>損亡

越中守養子 榊原民部

右は向後表方より御礼可申上旨廿三日<sup>二</sup>被 仰渡之

紅葉山火之番 井上相模守

右代り 三浦志摩守

右は去<sup>ル</sup>廿三日<sup>二</sup>被 仰付候

酒井下總守組身頭 同組 佐々木庄左衛門

小島助左衛門跡江

右之通被 仰付

御座之間

御暇

大澤右京大夫

大澤右京大夫

一 右日光<sup>江</sup>御いとま<sup>二</sup>付 御目見  
國目付之面々招殿中

松平因幡守石川美作守跡

右御引渡有之候  
稻垣備後守大御番頭被 仰付<sup>二</sup>付乗物 御免

廿六日

昨日也 大御番頭

一 右依被 仰付乗物御免之旨昨日大久保加賀守申渡之  
新御番<sup>江</sup>御番入被 仰付之面々

三枝撰津守<sup>江</sup>  
稻葉石見守

稻垣備後守

酒井伊豫守組  
山本佐五右衛門

同断 川野新十郎

同断 中嶋甚五郎

同断 飯河次左衛門

同断 青木太郎右衛門

同断 石丸与五左衛門

同断 本多善左衛門

同断 天野奎左衛門

同断 逸見五兵衛

同断 小林源左衛門

同断 和田孫左衛門

同断 都筑三大夫

同断 深澤三郎左衛門

同断 山本忠兵衛

同断 内藤源兵衛

同断 久留十左衛門

同断 酒井善三郎

同断 小笠原三五郎

同断 三嶋太兵衛

同断 山本与三右衛門

同断 小林佐左衛門

同断 田邊十左衛門

同断 曲淵源五兵衛

同断 三嶋清左衛門組  
松平弥右衛門

御納戸<sup>江</sup>  
服部忠次郎

同断 由比善兵衛

同断 福島長左衛門

同断 間宮市左衛門

同断 伊勢平八郎

同断 河内源五兵衛

久世出雲守

右之面々人少<sup>二</sup>付新御番入被 仰付之旨老中被仰渡候

右御詰衆列被 仰付候

廿七日

屋敷拝領之面々

土岐伊豫守上ヶ屋敷

大久保和泉守上ヶ屋敷

石川市正上ヶ屋敷

服部龜之丞上ヶ屋敷

尾張殿御屋敷

近所にて

右之通被下之候

設楽市左衛門

川井平大夫<sup>江</sup>

中山茂兵衛

右は御加増御書出老中被渡之

土井能登守堀田備中守松平因幡守石川美作守へ御加増地之

御書出被下

日門近々御登山<sup>二</sup>付医師久志本内蔵允差添被 仰付

廿八日

如例月次之御礼 御目見有之

龜井能登守

松平日向守

本多出雲守

酒井石見守

生越 龍穩寺

後住御礼 算 哲

東巻 恭打 尼ヶ崎 安 清

御暇時ふく武 又右衛門

廿九日  
新院御所<sup>江</sup>

初鶴

右以宿繼御進献之

土井能登守

堀田備中守

右は向後加判可仕旨被 仰渡之

御暇 銀十枚  
時ふく武

後藤理兵衛

三十日

松平志摩守

本多平八郎

松平日向守

本多出雲守

本多肥後守

右被為召去<sup>ル</sup>頃所替御加増 御書出頂戴之

水少将殿へ  
一御樽者種  
一荷式種

御暇 金三枚  
時ふく武羽折

同 人

撰州之内檢地被 仰付<sup>二</sup>付永井市正家来へ被下物

銀三十枚時ふく三羽折

安達又右衛門

安井佐右衛門

新城喜大夫

木村藤兵衛

志水六右衛門

御番入被 仰付

松平縫殿頭組<sup>二</sup>入

酒井伊豫守組<sup>二</sup>入

戸田備後守組

野間金石衛門

大久保山城守組

山高三左衛門

柳營日次記

延寶七己未年

九月

朔日

月次之御札如例御一門方 御對顔諸大名 御目見

土井能登守

石川美作守

右當月六月番被相勤

参勤

（金馬代）  
時ふく十

御暇時ふく六羽折

時ふく五羽折

四羽折

参上銀馬代  
らうそく式箱

新院へ初菱喰御進献之

二日 無事

三日

今朝為重陽之御祝儀御両殿より御小袖進上之於 御座之間披露之右同断二付 御三人方国持大名并老万石以上之諸大名も御小袖進上之板倉石見守家来於大廣間請取納之

大沢右京大夫登山二付

銀千五百枚

右為御布施被遣之

昆布一箱

葛西苔一箱

干瓢一箱

樽二荷

右於日光山御門跡へ被遣之

覚

銀三十枚

同断

同断

銀式十枚

同断

龍光院

妙道院

藤本院

大養院隠居

日増院隠居

華藏院隠居

長光院

無量院

新上人

安養院

寂照院

教圓院

觀行坊

放光坊

衆徒十九人

山口忠兵衛

御殿番四人

同心四十人

内五人へ御佛殿方

辻番

四十式人

右今度 正遷宮二付鳥目式千貫文被下之

日門明日御発足二付 上秋伊勢守を以御菓子被遣之

大沢右京大夫 御渡物

雄劔 一腰

龍蹄 一疋 黒毛鞍置

奥三種二荷

右願二付大手屋敷被召上之則為代奥平小次郎上ヶ屋敷被下之

小笠原能登守

土屋相模守

右彦岐守と改之

土井能登守江

松平因幡守江

三宅能登守

右之通被下之旨於 御前被 仰付之

右土佐守と改之由

御厩方加藤太郎右衛門儀父権左衛門役儀被 仰付之

五日 無事

右は来レ七日 正遷宮二付為 御名代依被遣於御黒書院御朱

印頂戴之且又日光山江被遣物相渡之

雄劔一腰了戒代金廿五枚

竜蹄老疋黒毛鞍置

右は 御神前江被献上之

日光御門跡江

右は正遷宮為御祝儀被進上之

加藤太郎右衛門

右は父権右衛門役儀被 仰付之

六日

御加増  
老万石

右之通御加増にて信州小諸より駿州田中江所替被 仰付之

奏者番御免

西尾隠岐守

右式万五千石本高にて駿州田中江信州小諸江所替被 仰付之右於 御座之間 御直<sup>二</sup>被仰出之且酒井日向守事奏者御番御免之由也

松平内匠頭水戸より帰 御目見

七日

来<sup>ル</sup>十七日 日光山

上秋伊勢守

三浦志摩守

右可被遣之旨被 仰付之

大和國之内檢地被 仰付<sup>二</sup>付本多平八郎家来へ被下物

銀五十枚時ふく三羽折

吉岡新左衛門

同断

山田十郎右衛門

多羅尾源大夫

湯川長大夫

石橋八大夫

花村平大夫

難波六郎兵衛

八日

御役替

御軍筋奉行  
父新左衛門跡江  
御金奉行  
多田所左衛門跡江  
御宝藏番頭  
山田次郎右衛門跡江  
直田与左衛門組  
恒岡左大夫  
稲垣備後守組  
戸田茂兵衛  
植村上佐守組  
鈴木次右衛門  
八幡  
豊藏坊  
使僧

右之通老中被 仰渡之

九日

辰下刻御黒書院 出御 御刀 朽木和泉守

館林宰相殿

甲府中将殿

右 御對顔畢<sup>而</sup>御白書院 出御

尾張中納言殿

水戸宰相殿

紀伊中将殿

右 御對面大廣間 出御之刻大廊下<sup>二</sup>て

高家衆

詰衆

諸番頭

諸物頭

諸役人

諸奉行

右並居一同 御目見則大廣間にて諸大名 御目見

十日

日光山正遷宮去七日首尾好き相濟之由棍左兵衛佐高木忠右衛門之注進依之御三人方之使者上<sup>ル</sup>謁老中退去也 典同典同断

右は福嶋領引渡帰登 城謁老中

井戸十右衛門

浅草御藏火之番松浦肥前守谷御藏火之番京極甲斐守被 仰付

十一日

浅草御藏火之番

谷之御藏火之番

右之通昨日以奉書被 仰付之

御宝藏番頭鈴木忠右衛門へ組引渡之

伊勢春木大夫山本大夫之御祓長蛇献之

西尾隠岐守所替<sup>二</sup>付金三千兩拜借被 仰付之

十二日

評定所式日寄合美濃守備中守出座也

御座之間

大澤右京大夫

上秋伊勢守

三浦志摩守

右日光帰 御目見

右 御目見御暇且日光御門主<sup>江</sup>一種一荷被遣則伊勢守持参也

伊勢<sup>江</sup> 御名代朽木和泉守被 仰之

十三日

御座之間

久世出雲守

土屋相模守

右奏者御番被 仰付之旨 御直<sup>二</sup>被 仰付之

西尾隠岐守

右は所替<sup>二</sup>付拜借金被 仰付之旨戸田備後守へ被 仰付之

松平伊賀守

右は連々隠居雖奉願末年若候間其上同氏与十郎若輩たる之間只今之通<sup>二</sup>て可相勸旨被 仰渡之

松平備中守

右之通被下之

山口半右衛門上ヶ屋敷

右願<sup>二</sup>付同姓下総守子養子<sup>二</sup>被 仰付之

京極信濃守

松平加賀守壺口切之御茶菱喰三献之

十四日

甲府殿青陽院殿就御一周忌今朝傳通院へ為 御名代

稲葉美濃守

右同人を以御香奠銀子式百枚被遣之

十五日

月次之御礼 御目見

尾張殿

右は御病氣故出仕無之候

福島掃御礼

井戸十右衛門

水谷左京亮

御暇時服十

二羽折

五羽折

郡山江 金老枚

御暇時ふく式羽折

御暇銀廿枚時ふく式

高野門首

無量壽院

時ふく三  
〃 式  
參上火燭十筋  
先頃 上使被遣御礼  
二種一荷  
養子願之通被 仰付三付  
參上 一東一卷  
同断  
駿州論所見分攝  
信州川越筋論所見分攝  
御礼  
大籍五筋

〃 学侶方  
〃 善集院  
〃 行人方  
〃 上性院  
大坂御藏奉行  
小林勝之助  
水少將使者  
赤林三郎兵衛  
一身田使者  
齋藤庄兵衛  
高野学侶方  
東 南院  
〃 行人方  
蓮華定院

日根長左衛門  
西山六郎兵衛  
梶 四郎兵衛  
内藤弥七郎  
八幡所司  
紀 主水  
坂本弥七郎  
京町人

石川美作守<sup>江</sup>  
土屋伊豫守上ヶ屋敷  
右之通被下之  
御暇時ふく四  
〃 式  
〃 金三枚  
時ふく貳  
奥州へ御馬買御用  
禁裏へ初鶴御進献之

水少將使者  
赤林三郎兵衛  
齋藤庄兵衛  
中山勘兵衛  
諏訪部文九郎

土屋主税<sup>江</sup>  
松平因幡守上ヶ屋敷  
右被下之旨同姓相模守<sup>江</sup>申渡之  
辰下刻紅葉山 御社參御供如何  
御供 松平因幡守石川美作守内藤若狭守三枝撰津守  
御先立 酒井河内守 御刀 酒井老岐守 御沓 三枝對馬守  
豫參 雅楽頭美濃守加賀守能登守備中守

御暇時ふく四  
〃 式  
〃 金三枚  
時ふく貳  
奥州へ御馬買御用  
禁裏へ初鶴御進献之

右登 城謁老中  
右母儀去十六日死去是、松平土佐守姉之由<sup>伊勢</sup>  
御暇時ふく貳  
〃  
〃  
山本大夫  
紀 主水

右は信州小諸へ引渡  
駿府為御目付後地罷在候付  
可同道旨  
右駿州田中<sup>江</sup>引渡  
右可被遣之旨被 仰渡之  
駿府加番  
右三人代り被 仰付之  
十九日 大坂御目付攝

内外宮へ金十枚ヲ御奉納  
村瀬伊左衛門  
跡邊宮内  
大関勘右衛門  
市橋下總守  
本多豊前守  
戸田孫七郎

御座之間  
御暇  
朽木和泉守  
右は 御目見勢州<sup>江</sup>為 御名代被遣<sup>三</sup>付御暇拜領之

右之通縁組被 仰付之  
榑原式部大輔姉  
松平撰津守  
右願に付隠居被 仰付後住弟子惠林<sup>江</sup>被 仰付旨以飛脚被  
仰遣之  
法皇 本院へ鶴御進献之  
尾黄門ヶ壺口切之御茶一荷二種被献之使者成瀬隼人

御暇時ふく一  
大坂御目付攝  
大坂御金壹領  
罷下候付  
甲府ヶ參上  
時ふく貳  
銀馬代  
御暇時ふく一

御供 松平因幡守石川美作守内藤若狭守稲葉石見守  
御先立 酒井河内守 御刀 酒井老岐守 御香 稲垣市正  
尾黄門 水宰相紀中将陪拜方大拜迎

豫參 雅楽頭美濃守加賀守能登守備中守  
日門へ為御使島山下総守被遣之

廿五日

土井能登守

右今度拝領屋敷 明廿六日移徒也

大坂町奉行

彦坂老岐守

宮城監物

能勢惣十郎

藤堂主馬

田中孫十郎

右は於 御座之間 御直に被 仰付之

廿六日

本多肥後守播州穴栗へ得替被 仰付<sub>二</sub>付彼地居所無之<sub>三</sub>付銀百貫

目拜借被 仰付之

廿七日

兩典へ 上使酒井老岐守御鷹之鶴被遣之

新院へ宿次を以御鷹之鶴御進獻之

廿八日

本多肥後守

右は去頃穴栗<sub>江</sub>所替被仰付彼地居所無之<sub>付</sub>拜借被仰付

之旨大久保右京亮<sub>江</sub>一昨日被 仰渡之

辰下刻御表 出御月次御礼有之

御徒頭

藤堂主馬跡<sub>江</sub>

同断

能勢惣十郎跡<sub>江</sub>

同断

宮城監物跡<sub>江</sub>

小十人頭

田中孫十郎跡<sub>江</sub>

中根大隅守組

池田帯刀組

戸田又兵衛

市岡左大夫

右 御直<sub>二</sub>被 仰出 入御也

右僧正<sub>三</sub>被 仰付依願也

松平因幡守

右は明日移徒之由

尾黄門水宰相へ三枝拱津守を以御鷹之鶴被遣之

参助 銀馬代

(らうそく二箱

銀馬代

時ふく武

参上 秋原紙一東

御暇 時ふく五

参上 秋原一東

(段子五巻

大坂御金客領

罷下<sub>二</sub>付

東巻

逃行上人

田中大隅守組

中川久太郎

米津才兵衛

當山二之宿

東巻

永井佐渡守組

米津才兵衛

當山二之宿

廿九日

日門へ吉良上野介を以當月御祈禱料銀百枚被遣之

尾黄門水宰相登 當昨日鶴被下之御礼也

紀黄門在国<sub>二</sub>付御鷹之鶴宿次被遣之

千代姫御方へ御鷹之鶴被遣之

三十日

右於 殿中組中引渡有之

紀中将 上使瀧川若狭守御鷹之鶴被遣之

市岡左大夫

小十人頭

大坂御金客領

田中大隅守組

木村勘右衛門

永井佐渡守組

間宮孫太郎

田中大隅守組

中川久太郎

永井佐渡守組

米津才兵衛

當山

柳當日次記

延寶七<sub>己未</sub>年

十月

月番

堀田備中守

松平因幡守

朔日

御刀

酒井老岐守

今晩亥猪<sub>二</sub>付例月之出仕無之候及暮御譜

代大名衆高家詰衆三千石以上寄合大御

番頭之惣領御留守居御目付衆町奉行御近

習衆各登 城西刻御白書院 出御御作

法如例年亥后刻事畢 入御

二日無事

三日

右諸大夫被 仰付旨老中被 仰渡之肥前

守と改之

大坂御金客領

田中大隅守組

木村勘右衛門

永井佐渡守組

間宮孫太郎

田中大隅守組

中川久太郎

永井佐渡守組

米津才兵衛

當山

御暇時ふく武

二之宿

四日

於評定所式日寄合美濃守能登守出座也

甲州身延山久遠寺後住之儀淨論遂糺

明申渡之覚

久遠寺住持日通及死期以飯高学室隱

居日脱可為後住之旨遺狀戴之江府三ヶ

寺<sub>江</sub>も其段申違候間日脱入院奉願之由

学禪院等申候之旨證文無紛之事

一 身延住持職如日境日尊日蓮之例於佛前取圖可相定旨惠性院慈雲院等雖申之穿鑿之上今度之證據難成之処欲申掠之条不屈之事

一 以遣状定後住者依帖貝以負難料候間後代迄為山為法候条向後佛前之圖奉願之由身延隱居日蓮之雖然以圖相定之儀諸寺諸山無其例況又新規之企甚曲事なり日脫事今度日蓮相守之處久遠寺住持相應之よし申之然上日通遺状旁以有謂之処圖方非儀申出僧徒之所行候日蓮儀

双方江加異見無事可相調之処却致荷擔圖方弥申募候儀不似合隱居仕方候依之日蓮儀佐竹右京大夫江御預候惠性院法性院鏡像院真如院本應院惠林坊右六人江御追放慈雲院覺林坊武井坊圓臺坊禪定坊右五人為此度之張本候間遠嶋被仰付者也

延宝七己未十月四日  
右奉書式枚継之太文字右之通書之刻十月四日之評定被仰付旨寺社奉行御目付日根野権十郎相掛日蓮は佐竹殿江御預残り衣を取纏を懸篋屋へ先遣

一 御追放之覺  
關東八ヶ国 甲斐 駿河 尾張  
紀伊 京 大坂 奈良  
伏見  
五日 酒井日向守  
右於 御前所替之御書出頂戴之  
天方主馬

右於駿河氣色以外二付而息三郎兵衛御いとま被下之

御暇時ふく一 曼若長床坊 使僧

六日 無事

七日 無事 御座之間

八日也 契斗一箱 右從勢州御名代帰 御目見

八日 御座之間 右宿繼をもつて被遣之

九日 右依病氣無登 城也

御暇時ふく四羽折 武田吉仙 溝口孫左衛門 川口長三郎

十日 御座之間 水戸少將殿

右米津周防守を以て被遣之 松平越後守

十一日 御座之間 兩 御 殿

八丈嶋五十反宛 上使酒并卷殿守 尾張 殿 幸相 殿 江

右被遣之則為御礼登 城也

十二日 於評定所式日寄合大久保加賀守出座

老 中 江 若年寄兩人 江

右於 御前拝領之 重陽時ふく献上之面々 御内書被下之

松平加賀守へ御鷹之鶴被下之 上使御使役 松平因幡守 石川美作守

十三日 右大膳大夫願之通跡式無相違息元丸被 仰付之旨老中傳達

右大膳大夫病氣付名代息元千代并毛利治部少輔酒井越中守へ於 殿中申渡之

十四日 松平大隅守へ御鷹之鶴被下之 上使御使番

十五日 右組中於 殿中御改在之

月次御礼如例 御目見其外參勤御礼有之

本多越前守 水少將使者 門奈庄右衛門

御座之間 御座之間 御座之間

東本 初番 知楽院弟子  
宮内卿  
入峯婦 本山先達  
大覚院  
遺物 了祐  
二条御役人  
都筑宗兵衛  
火繩十筋  
島目 初番 同人子  
小三郎

相馬出羽守於在所病氣付久保玄貞願之通可被遣旨  
戸田土佐守病免

十六日 昨日也  
相馬出羽守

右於在所氣色以外付久保玄貞  
依願被遣之旨東采女江老中被仰渡之  
唐藏廿卷  
二種老翁  
細川越中守

右 帰国付進上之

十七日  
紅葉山 御名代  
十五日也  
稲葉美濃守  
戸田土佐守

右 依病願之通御役御免之旨吉良上野  
介江一昨日被仰渡之  
馬代奉行  
井戸惣右衛門  
丸田小左衛門  
長谷川藤十郎  
連松五兵衛

右只今迄雖為寢舎明日伊豆大嶋へ流  
罪被仰付之旨伴左平江老中達之  
御座間 日光輝  
大井新右衛門

十八日  
巳刻御黒書院 出御繼目之御礼有之  
金十枚  
繼目  
毛利元丸  
金百把  
毛利元丸家来  
桂 民部  
銀馬代  
神村将監

右御目見畢而御勝手信州小諸へ引渡  
御暇

金三枚  
駿州田中引渡御暇  
村瀬伊左衛門  
跡部宮内  
但大関勘右衛門は駿府直に宮内一処に  
罷越  
御刀備前長義  
金十五枚  
毛利日向守

右之遺物として進上之  
御暇時ふく五羽折  
時ふく十  
西尾隱岐守  
酒井日向守  
山下五郎右衛門

右御使役 御直被仰付之  
御鷹之鶴排御礼 石野傳一郎  
尾中將使者  
紀黄門使者  
拜領之鷹探候歴式 鈴木左兵衛  
御座間酒井河内守へ八丈嶋十反被下之  
紀中将へ上使酒井老岐守八丈織三十反被遣之為御礼登城  
御暇時ふく三  
水少將使者  
門奈庄右衛門  
時ふく三羽折  
細川越中守使者  
藪二九之助

十九日  
富士根方大鏡坊にて四十二ヶ村之百姓野論二付  
御穿鑿之上被 仰渡之覺  
流罪  
大鏡坊隠居  
富奥院  
大鏡院  
池西坊  
辻之坊  
百姓式人  
百姓式人

右は去十二日於評定所申渡  
今朝松平越後守御預之輩左之通  
萩主馬  
片山外記  
永見大藏  
渡邊九十郎  
中根長左衛門

松平出羽守江  
伊達遠江守江  
松平大膳大夫江  
松平大和守江  
松平越前守江

右於評定所彦坂老岐守嶋田出雲守并

市岡五左衛門曾我権兵衛列座被申渡且亦  
越後守家老片山主水林内藏介招之右被  
仰渡之趣越後守へ可傳之旨被申渡之  
右一件別紙有之  
松平相模守へ御鷹之鶴被下之御使番持參

廿日  
上野 御名代  
大久保加賀守  
堀田備中守

右 從弟差合登 城無之  
是同姓豊前守家来堀田左門死

廿一日  
右病氣以外付願之通東采女御いと  
ま被下之  
相馬出羽守  
松平大膳大夫へ御鷹之鶴被下御使番持參  
西丸御留守居與力江  
七十俵五人扶持ソ  
板倉市正組分間宮忠左衛門組へ入  
河井理右衛門  
大久保山城守組分間宮七郎兵衛組へ入  
手嶋三右衛門  
御暇時ふく三  
紀黄門使者  
石野傳市  
尾中將使者  
鈴木太兵衛

廿二日  
於評定所式日土井能登守出座  
飯河善左衛門  
右は近衛左府公姫君縁組二付甲府中将殿  
御簾中為御迎可被遣之旨  
堀田備中守

右忌 御免に付登 城也  
松平讃岐守へ御鷹之鶴被下御使番持參

廿三日  
西丸御留守居  
間宮忠右衛門  
同 七郎兵衛

右両組之与力明為之付老人宛被仰



を自分之證文を申様又所々於殘所之證文之内書抜

之一紙之證文之躰<sup>標</sup>作之對決之節一味之百姓を以

致合手受裁許其上<sup>一</sup>色忠次郎手代和田金左衛門

と致一味從公儀百姓方へ下置之繪圖面隱置之此

外種々邪謀之企私曲也依之富奥院<sup>ハ</sup>流罪池西坊

事今致為富奥院名代罷出大鏡坊儀<sup>ハ</sup>富奥院家

職致相續候然<sup>ハ</sup>右兩人江戸十里四方<sup>非</sup>駿河一國

追放辻坊儀今度檢使穿鑿之節一同之由申所

分明付有<sup>其</sup>科閉門被<sup>ハ</sup>仰付之事

一 大宮領山宮村粟倉村<sup>日次記は上小森村</sup>甲府領上北泉村大岩村前

々為入相之所富奥院<sup>ニ</sup>致一味候然共大岩村<sup>ハ</sup>六年

以前致白状入相之者共一同訴訟仕候付免其科

向後先規之通下木下草入相可刈之山宮村粟倉

村は富奥院被頼候由白状雖申之入相訴訟不相加候付

名主組頭籠舎申付候上小泉村始終富奥院と致

一味候付<sup>而</sup>名主組頭追放申付之候相殘小百姓<sup>ハ</sup>入相

下草下木可刈之事

右は日根野長左衛門西山六郎兵衛為檢使被差遣之

見分之上評定之面々令相談裁断如此為後繪繪

圖加裏書双方へ下置之間守此旨永不可違失者也

延宝七年十月十二日

右公事裁許之儀<sup>ハ</sup>評定所注置之間從古來不書

裁日記也

流罪追放之者有之付誤記之

延宝七年十月十九日

今朝評定所<sup>ニ</sup>而彦坂老岐守嶋田出雲守一尾岡五左

衛門曾我權之助立合松平越後守家來不義之輩

所々<sup>江</sup>御預覺

一 永見大藏事今度小栗美作儀付<sup>而</sup>萩田主馬一統

之者相静可申処左様不仕其上越後守在国候處相同

不申美作宅<sup>江</sup>押寄させ騒動為仕候事

一 萩田主馬一統之者誓詞を以徒黨為仕候事

一 大藏儀越後守當地<sup>江</sup>召寄之処無遠慮居屋敷<sup>江</sup>

直落着頭取仕候者共度々相集密談いたし候事

右之段越後守三河守<sup>ニ</sup>對し不届被<sup>ハ</sup>思召遠嶋可被

仰付候得とも御用捨大藏事松平大膳大夫<sup>江</sup>被成御預也

一 萩田主馬儀今度小栗美作付<sup>而</sup>越後守在国

之処不得下知永見大藏<sup>江</sup>致一味徒黨之者

共誓詞為仕候事

一 越後守參勤以後又不義之所謂申出付<sup>而</sup>あや

まり候旨誓詞仕候以後も一味之者共不相静様<sup>ニ</sup>仕

儀不届之事

一 越後守三河守為によろしく存由申儀共願之通申

付候処又候哉我辰成儀共申出候事

右之段越後守三河守<sup>ニ</sup>對し不届被<sup>ハ</sup>思召候切腹可被

仰付候得共代々相動來候者<sup>ニ</sup>候間被成御用捨主馬儀松

平出羽守<sup>江</sup>御預也

一 片山外記事今度小栗美作儀申立永見大藏致

一味之儀越後守為を不存我辰成訴訟申出

元江戸屋敷中騒動為仕候事

一 越後守僉議之上誓詞を以被申付候以後も不相

静様<sup>ニ</sup>申なし候段不届候事

一 中根長左衛門事江戸留守居仕罷在越後守へも

不相伺之永見大藏方<sup>ハ</sup>誓詞之儀申越候処當

地<sup>ニ</sup>罷在之者共誓詞取集之隱密<sup>ニ</sup>国許へ遣し

候事

一 今度あやまり候一統誓詞仕候以後も不相静様<sup>ニ</sup>

申成騒動仕らせ候事

一 渡辺久十郎事目付役をも仕候処大藏主馬申合致

荷擔候事

一 騒動以後も一統<sup>ニ</sup>あやまりの誓詞仕候以後も不相静

様<sup>ニ</sup>申なし候不届事

一 右之段越後守三河守<sup>ニ</sup>對し不届被<sup>ハ</sup>思召候切腹雖

可被<sup>ハ</sup>仰付被成御用捨片山外記儀<sup>ハ</sup>伊達遠江守へ

御預中根長左衛門事<sup>ハ</sup>松平越前守へ御預渡辺九十郎

儀<sup>ハ</sup>松平大和守へ御預也

一 右順々申渡之畢<sup>而</sup>林内藏助片山主水<sup>江</sup>右被<sup>ハ</sup>仰出

之通越後守へ可達旨彦坂老岐守申渡之

一 美濃能登石見出雲内藏喜右衛門加賀備中

山城若狭五兵衛

一 駿州富士郡今泉村と同郡東泉院領一宮村野

論之事日根野長左衛門西山六郎兵衛為檢使被差

遣見分之処論所一色村と大淵村野境塚大分

相見其上<sup>元</sup>一色村数年新畑新村仕立候上は一色

村地本無紛候雖然今泉村先規入來之儀<sup>シカ</sup>之

条向後弥入念秣可刈之然は評定之面々相談

之上如此裁断之畢仍後鑑繪圖之面引墨筋加

印判双方<sup>江</sup>老杖充下置之間堅守之不可違失者

也

柳營日次記

延寶七<sub>己未</sub>年

十一月

朔日

月次御札如例 御目見

尾張黃門鷹場へ御暇被遣之

右奏者御番被 仰付候

永井信濃守

右伯母忌無登 城是は京極備後守昨

日死去也

東卷 後住御札 身延山 久遠寺 日脱

進物 松村弥三郎

御目見 觀世太夫

二日無事

三日

右鷹場<sub>江</sub>今朝發足

尾張殿

右忌 御免也

御暇時ふく式 銀座 糸屋清五郎

大久保加賀守

四日

於評定所式日寄合備中守出座

尾張黃門鷹場へ使者 長野門左衛門

雁式 松平新太郎使者 梶田清右衛門

御暇時ふく式

五日

明六日より大手下乘兩所の橋御普請に付

紅葉山下坂下蓮池出入可仕之旨被 仰渡

之

六日

尾張門鷹場へ為 上使瀧川若狹守被遣旨<sub>可</sub>

御暇十枚ツ 内藤加兵衛 窪寺小左衛門

右御用<sub>二</sub>付若狹国へ可被遣旨

七日

右從弟女忌是<sub>ハ</sub>成瀬惣左衛門妻死

稻葉美濃守

右甥忌に付無登 城

松平因幡守

松平新太郎へ御鷹之鶴宿次被遣之

御鷹之雁式ツ 上使御使番 松平左京大夫 宗對馬守 伊達遠江守

八日

國目付

御暇 内藤加兵衛 窪寺小右衛門

六日也 銀十枚ツ

右御用被 仰付若狹国迄被遣之御暇被 下之

尾張門鷹場へ 上使瀧川若狹守御鷹二隻 雁提 被遣之

御暇銀三十枚時ふく式 今春大夫 銀十枚 幸清五郎 大藏弥太郎

金一枚時ふく式 八左衛門 時ふく式 春藤源七

同断 大藏庄左衛門 今春三郎右衛門

同断 春藤六右衛門 大藏十兵衛

同断 春日四郎右衛門 八右衛門

銀十枚 今春惣右衛門 長大夫

銀十枚時ふく式 大藏長右衛門

九日

右忌 御免登 城也

美濃守 因幡守

本多越前守

右西丸大手御門番被 仰付之永井信濃

守代り也

尾張門鷹場へ 上使為御札松平出雲守登 城

同断從黃門為御札竹腰阿波守被差上之

十日

水戸少將殿

右御國元<sub>ハ</sub>拜領之御鷹捉之鳥二羽進 上之

加茂社家三人 御暇時ふく式ツ 貴布祢弥宜

御鷹之馬式ツ被下 上使御使番

松平摂津守 松平出雲守 松平刑部大輔 松平播磨守

松平大和守 於御座間八丈嶋五反ツ被下之

内藤若狹守 三枝摂津守 稲葉石見守

十一日

右被 召出之旨被 仰出候於御座之間

御目見是<sub>ハ</sub>佐田玉川弟也

御鷹之馬式ツ被下 上使御使番

有馬中務大輔 松平中務大輔 松平飛騨守 松平信濃守

松平肥前守 松平淡路守 酒井左衛門尉 小笠原遠江守

十二日

於評定所式日寄合大久保加賀守出座

御鷹之馬一ツ被下 上使御使番

榊原式部大輔 本多平八郎 松平越中守 本多下野守

真田伊豆守 牧野老之助 岡部内膳正

十三日

右氣色<sub>ニ</sub>付久保玄貞葉依断森雲

仙以奉書被 仰付之則一昨日發足之由也

御金貳万兩 甲府中將殿

相馬出羽守

右拝借被 仰付之

十六日

土井兵庫頭

東福門院衆

右於在所氣色大切ニ付

同姓氏部少輔

廿日

於御座間御鷹之鷹式酒井河内守拜領之

右為看病御暇被下之且又願之通村田忠

小膳料三十五兩被下

三宅玄蕃

庵以奉書被仰付之

小膳料廿五兩被下

川原彈正

御鷹之鷹一ツ 上使御使番

右四人屋敷被下之

同十兩被下

遠山將監

戸田左門 内藤紀伊守 本多越前守 本多飛騨守

右は頃日卒去之由松平大膳大夫松平

小膳料十兩被下

遠山五左衛門

松平因幡守 松平九十郎 小笠原老岐守 諏訪因幡守

越後守松平大和守為には從弟之由也

御臺所衆六人  
(日記記は御賄同所)

松平伊賀守 真田伊賀守 松平對馬守 稻垣信濃守

右は土佐において去ル四日死去

御賄同 一人

十四日

右之面々江屋敷被下之

伊賀衆八人

石尾七兵衛

鷹司政所

御小人六人

右播州明石完栗引渡帰登 城謁老

右は頃日卒去之由松平大膳大夫松平

伊達兵部省

中

越後守松平大和守為には從弟之由也

伊達兵部省

天方主馬

右は頃日卒去之由松平大膳大夫松平

伊達兵部省

右於駿府病氣以外ニ付北嶋玄甫被遣

右は土佐において去ル四日死去

伊達兵部省

之

右は頃日卒去之由松平大膳大夫松平

伊達兵部省

於御座間御鷹之鷹拜領之

右は頃日卒去之由松平大膳大夫松平

伊達兵部省

美濃守 加賀守 能登守 備中守

紅葉山 御名代

大久保加賀守

十五日

十八日 無事

大久保加賀守

如例月諸大名出仕少々御風氣被為成

信州小諸引渡帰

村瀬伊左衛門

御座候為御養生 御表江 出御不被遊

右昨日登 城謁老中

村瀬伊左衛門

候旨老中列座雅楽頭被 仰渡之

右被下之依之日光御目付為代加藤兵

梶左兵衛佐

御座之間

右被下之依之日光御目付為代加藤兵

梶左兵衛佐

右 御對顔

右被下之依之日光御目付為代加藤兵

梶左兵衛佐

鷹場帰之御札

介明十九日罷越ニ付而持参之由

梶左兵衛佐

右 御對顔

初雪ニ付而為何御機嫌御向殿御三人方方

梶左兵衛佐

鷹場江御暇

使者上ル謁老中同断ニ付四品以上之面々

梶左兵衛佐

右進上之

政所棄去ニ付鷹司殿へ奉書

梶左兵衛佐

鷹場江御暇

御鷹之鷹式戸田越前守へ宿次被遣之

梶左兵衛佐

右御いとまに付 御對顔

政所棄去ニ付鷹司殿へ奉書

梶左兵衛佐

鷹場江御暇

御鷹之鷹式戸田越前守へ宿次被遣之

梶左兵衛佐

右御いとまに付 御對顔

御鷹之鷹式戸田越前守へ宿次被遣之

梶左兵衛佐

鷹場江御暇

御鷹之鷹式戸田越前守へ宿次被遣之

梶左兵衛佐

鷹場江御暇

御鷹之鷹式戸田越前守へ宿次被遣之

梶左兵衛佐

鷹場江御暇

御鷹之鷹式戸田越前守へ宿次被遣之

梶左兵衛佐

鷹場江御暇

御鷹之鷹式戸田越前守へ宿次被遣之

梶左兵衛佐

於御座間御鷹之鷹式酒井河内守拜領之

廿日

政所卒去ニ付鷹司殿江奉書被遣之

上野 御名代

大久保加賀守

廿一日

大久保加賀守

廿二日

大久保加賀守

金武杖

妻木彦右衛門

右松平土佐守へ御預之伊達兵部少死去

ニ付為檢使松平土佐守国元江被遣ニ付被下之

廿二日

大久保加賀守

評定所寄合堀田備中守出座

廿二日

大久保加賀守

右は去ル廿日死去也

大久保加賀守

日門へ為御見廻島山下総守被遣之

大久保加賀守

水室相鷹場へ 上使森川撰津守御鷹二双鷹捉被遣

大久保加賀守

之

大久保加賀守

降雪ニ付御一門方使者被差之

大久保加賀守

廿三日

大久保加賀守

右從弟忌一昨日方引込今日御免登

大久保加賀守

城也

大久保加賀守

御鷹之鷹一ツ

大久保加賀守

石川主殿頭 永井信濃守 土井周防守 板倉石見守

大久保加賀守

久世出雲守 土屋相模守 松平山城守 秋元撰津守

大久保加賀守

内藤和泉守 永井伊賀守 三浦志摩守 阿部伊与守

大久保加賀守

那須遠江守

大久保加賀守

於御座間松平因幡守石川美伴守御鷹之鷹一ツ拜領之

大久保加賀守

増上寺 御名代

大久保加賀守

森川撰津守水戸殿從鷹場帰に謁老

大久保加賀守

為 上使之御礼水戸殿々中山市正被差上之

廿五日

御三人方如例年御菓種一箱ツツ被遣之

御臺所目付

藤井善右衛門

右為御褒美被下之御役御免

御一門方より御様嫌伺使者差出ス

廿六日

榊原式部太輔姉  
松平摂津守<sup>江</sup>

右昨夜婚礼有之

水戸殿鷹場々使者を以鷹鴨被献之使者直<sup>二</sup>御眼被下

廿七日

隱居被 仰付面々

有馬左衛門佐

同 周防守

同 求之助

同 七之助

同 土方河内守

同 監物

同 民部

坂部三十郎

同 彦八郎

柴田新兵衛

同 七左衛門

岩瀬市兵衛

同 次郎右衛門

永見新右衛門

山田甲斐守

同 松軒

三百俵

紅葉山火之番

野村伊大夫

野村佐左衛門

右之通隱居家督被 仰付之

高式万石

右被為 召縫殿介幼少<sup>二</sup>而依為死去知行被 召上之新規<sup>二</sup>四千石主計<sup>二</sup>被下之

都合五千石<sup>二</sup>被成下之旨老中申渡之

戸川主計

右千石取来候処為御加増四千石被下之

御使役

日下部權太夫

久留善兵衛

建部惣右衛門

右三人病氣<sup>二</sup>付願之通御役 御免

川野庄次郎

井上平八郎

右御勘定被 仰付之

佐山庄左衛門御臺所目付被 仰付之

廿八日

如例月<sup>二</sup>次御礼 御目見

相馬出羽守

右於在所去廿三日死

石川美作守

右<sup>二</sup>上ヶ屋敷

朽木和泉守

右被下之

箱者 病後 大久保安藝守

参府 銀馬代 永井日向守

時ふく三 知恩院御跡使者 大峯御礼

薫衣香 國民部卿 若王子

寺地作事料被遣御礼 参府 首蒲皮十枚 勝仙院 使僧

先頃中將殿 紀實門使者 銀馬代 石川又四郎

八丈嶋拝願御礼 齋藤半藏 明石掃 石尾七兵衛

拝願之鷹提候 水少侍使者 小諸掃 村瀬伊左衛門

馬式被献之 吉田平六郎 田中掃 跡部宮内

御鷹之鶴拜願 葛西忠岐 御礼 幸手 不動院

廿九日

御番入被 仰付面々

御納戸被仰付

大御番

酒井下總守組

酒井伊与守組

本多淡路守組

稲垣備後守組

板倉伊与守組

榊村土佐守組

松平藤頭組

水野周防守組

小十人

飯室平藏

多田八郎左衛門

秋山源左衛門組

細井金五郎組

田中作兵衛組

三嶋清左衛門組

御鷹匠

小栗長右衛門組

同断

清水權之助組

大御番

酒井下總守組

酒井伊与守組

本多淡路守組

稲垣備後守組

板倉伊与守組

榊村土佐守組

水野周防守組

御鷹匠

惣右衛門子

半左衛門子

小栗平右衛門

田邊宇太夫

森川太郎兵衛

小俣七郎左衛門

川崎七郎左衛門

津金又右衛門

本間孫右衛門

一色治兵衛

久松勘右衛門

小栗孫次右衛門

木村久次郎

神田新左衛門

大岡善左衛門

佐々木庄右衛門

庵原甚五左衛門

秋浦五郎大夫

多田八郎左衛門

市岡左大夫組

飯室平藏

野口喜左衛門

須田五左衛門

横山五郎太夫

鈴木平右衛門

初鹿野儀左衛門

宇津野源左衛門

榊原作太夫

右之面々御腰物奉行被 仰付之

御栗種

右如例年被下之則為御礼登 城也

御臺所目付  
藤井善右衛門跡江

右は去 廿四日被 仰付之

御徒目付  
佐山庄左衛門

御醫師

晦日若王寺勝仙院使僧御暇時服二宛被下之尾張中將殿使者小昔伊

左衛門時服二

柳營日記記

延寶七 己未年

十二月

朔日

月次御礼如例 御目見有之

參勤

（金馬代）  
錦百把 青山大膳亮

參勤伺 紀伊門使者 原田市十郎

京都端 飯河善左衛門

甲府參上 甲中將家來 渡辺平左衛門

役所參上 松平清三郎

進物 奥箱者 幸若八郎九郎

〃 与右衛門

〃 權八郎

二日

小笠原土佐守女  
秋山吉兵衛 江

右之通婚禮有之

小昔請

大久保山城守組 勘右衛門子

大久保右京亮組 源左衛門子

板倉市正組 新右衛門子

大久保右京亮組 傳左衛門養子

右大番へ御番入

欠 三万兩

右之通拝借金被 仰付之

館 林 殿 江

三日

一 順見依相濟被下物

御勘定

組頭 設樂七左衛門

〃 系原勘兵衛

〃 平野次郎左衛門

組頭三人  
時ふく武羽折ッ

御勘定七人  
時ふく武ッ

右は去年五畿内筋為見分被遣二付被

下之

午未兩年五畿内 近国御藏入之場檢地之儀其所之大名 江

仰付之檢地之通注帳面差上候御勘定十人へ右之帳面改役被

仰付幸勞二付

上野宝樹院殿へ御名代美濃守

御暇時服二 紀伊殿使者 原田市十郎

御勘定十人拝領物 紀伊門使者

御暇時ふく三羽折 原田市十郎

四日

甲 府 殿

右婚禮来十一日被相極

一 評定所式日堀田備中守出座

稻葉美濃守

右少氣色二付登 城無之

府中將 秋山六左衛門

時ふく武ッ 門奈助左衛門

日門へ上使上秋伊左衛門八代蜜柑被遣之

五日

口切之御茶 日光御門御使者 野澤縫殿

御菓子一箱

右進上之謁老中 御量奉行 柴村次郎右衛門

右病二付願御役御免昨日被仰付之

美 濃 守

右今日も登 城無之

御暇時ふく武 古筆 了祐

六日

右氣色快今日登城

稻葉美濃守

石谷長門守

右願之通御役御免也

七日無事

八日

御醫師

專益子

森友益

坂本養庵

右兩人奉願御番入被

仰付旨老中

被仰渡之

九日

右願之通加藤内藏介次男内記を養

子<sup>二</sup>被仰付旨昨日堀田備中守宅

招之被仰渡之

御屋敷被下候面々

溝口伊与守

榎原采女  
天野傳四郎  
平賀玄純  
久保玄貞  
佐藤慶甫  
杵本忠恵  
笠原養古  
原田宗馭

右朽木和泉守上<sup>レ</sup>屋敷之内<sup>二</sup>被下之

十日

井関玄悦

右向後御脉伺可申旨昨日被

仰渡之

本多織部

右同姓隱岐守隣<sup>二</sup>六間<sup>三</sup>三十間之  
屋敷被下之

神尾次郎大夫  
上原宇右衛門

右上一屋敷被下之右は昨日被

已下刻御黒書院 出御參勤御礼有

之

御役替

本多忠左衛門

右 御直<sup>二</sup>被<sup>レ</sup>仰付畢<sup>一</sup> 入御也

婚姻御礼  
時々四 十居周防守 駿府御定番  
" 式 織田信濃守 天方主馬跡正  
" 三 本多飛騨守 御普請奉行 一式社志  
" 式 五嶋佐渡守 本多忠左衛門跡<sup>二</sup>御  
御前国助成御刀代金廿五枚

千石御加増<sup>二</sup>御  
松平甚三郎

御前国助成御刀代金廿五枚

右四拾八人跡目被 仰付之旨老中被  
仰渡之

大岡新五兵衛跡  
丹羽六左衛門跡  
星合太郎兵衛跡  
美濃部三郎右衛門跡  
右四人父子依同高被 仰渡無之  
元番組頭  
今井三郎右衛門

右願之通隱居被 仰付御切米貳百俵  
惣領又左衛門被下旨被 仰渡之

右少々風氣に付て今日御婚姻相延  
申候由

堀 市正

右依令乱心領知老萬二千石被召上之  
天方主馬四男主稅江新規 三千石被  
下候旨堀小四郎江老中被仰渡候但主  
稅儀市正弟也

堀市正儀領知一万貳千石被召上之此内三千石弟主稅天  
方主馬二男被下之其譯、市正先年大坂為御加番被差登  
候節弟主稅養子二仕度旨願出老中月番迄差置  
其後病氣三付也然、市正実父天方主馬今般令  
病死跡目被 仰出付三右市正願之書付老中懸一覽之  
趣達 高聽処先年養子願之書付月番迄相渡置  
事雖為病氣以前其段露顯無之然間市正雖存  
生右之通被 仰付之

十二日

評定所寄合稲葉美濃守出座也

御納戸頭  
横山藤左衛門

右願之通御役御免被仰渡之

御暇銀三十枚時ふく三 幸若小八郎  
時ふく武 〃 三右衛門

十三日

御煤拂御延引是、奥方御普請二付  
而也

右風氣一兩日以前々登 城無之  
右澁谷下屋敷於近所去八日屋敷被  
下之

十四日 上使稲葉美濃守  
水戸殿江  
右依參勤今朝 上使被遣之

十五日 鷹場掃御礼  
水戸宰相殿  
已下刻御黒書院 出御如例御一門  
方 御對顔

右進上之 鷹之鷹二羽  
參勤之御礼  
水戸宰相殿

右進上之畢、御白書院出御例之通  
諸大名 御目見也  
縁組被 仰付面々

森 内記娘  
松平近江守江  
松浦肥前守娘  
織田式部江  
對馬守子  
秋月佐渡守娘  
有馬左衛門佐娘  
牧野左京江  
傳藏子  
稻垣藤九郎娘  
山口勘兵衛江  
勘兵衛惣領  
稻垣藤九郎娘  
孫九郎子  
仁賀保小十郎江

水野左京娘  
平岩介右衛門江  
神原八兵衛娘  
松波勘兵衛江  
勘右衛門惣領

中山勘解由娘  
瀧川彦次郎江  
高田庄右衛門娘  
大岡五左衛門江  
設楽肥前守娘  
成瀬瀧右衛門江  
前田又兵衛娘  
小出兵介江  
小嶋介左衛門娘  
朝田長三郎江  
石川彦五郎娘  
鈴木主稅江  
甲府殿用人  
四郎左衛門次男

右之通縁組被 仰付之旨老中申渡之

甲府殿

右御風氣二付今日登 城無之

歲暮御小袖来九廿一日可差上之旨御三  
人方御城附江大久保加賀守申渡之  
御暇時ふく二十 御馬  
〃 時ふく二十 御馬  
松平越中守  
勝之助二男  
小林三四郎  
二諦坊  
上林竹庵  
水家来江白次江江本江登志  
山野辺右衛門  
鳥居瀬兵衛  
太田彦六郎

嶋村十郎左衛門  
石井集人  
二種一荷  
右東門跡願之通隱居被仰付御礼  
御暇金一枚  
時ふく武  
小林勝之助

十六日

右御風氣能来九十八日御婚禮有之由

甲府殿



久保吉右衛門  
右御番御免如父時可相勤之旨老中申渡之

廿日  
紅葉山 御佛參御延引

御名代 雅 樂 頭  
飯高七右衛門

右御奉書改被 仰付之是は久保吉右衛門跡也

廿一日

今朝歳暮御祝儀御兩殿御小袖進上之於御座之間披露之右同断<sup>二</sup>付御三人

方<sup>并</sup>御連枝方より御小袖進上之於柳之間大久保加賀守請取納之右同断<sup>二</sup>付国持大名万石以上諸大名<sup>江</sup>御小袖進上之於大

廣間奏者御番松平山城守家來請取納之

甲府中将殿<sup>江</sup>  
御 簾 中<sup>江</sup>

甲府御袋様<sup>江</sup>

甲府殿家來<sup>江</sup>被下物

岡野肥前守  
戸田伊勢守  
岡部出羽守

渡辺平左衛門  
藤枝丹波守  
御用人三人<sup>江</sup>

奏者番四人<sup>江</sup>

御留守居三人<sup>江</sup>  
御小姓十八人<sup>江</sup>

御小納戸十式人<sup>江</sup>

諏訪主殿  
山口孫太郎  
戸田十左衛門  
藤枝帶刀

女中<sup>江</sup>被下物

小 倉  
富小路

久米治  
山 野

上 藤  
小上藤

介 副  
局

おさし  
惣女中<sup>江</sup>

奥家老

有馬宮内  
川口茂右衛門

豊田半左衛門

右は御婚礼為御祝儀土井能登守をもつて被遣之

右兩人大坂御目付為代被 仰付之

右之通被 仰付之

御勘定者惣領被召出之七人

武左衛門子 源兵衛子  
能勢藤九郎 小池源三郎  
孫左衛門子 一郎右衛門子  
秋山彦大夫 神尾孫大夫  
權左衛門美子 三神傳右衛門  
御暇時<sup>ふく</sup> 小笠原治右衛門  
奥今井関玄説葉被 召上

武右衛門子  
權右衛門子  
三神傳右衛門  
市郎右衛門子  
神尾孫大夫

源兵衛子 小池源三郎  
孫左衛門子 秋山彦大夫  
清兵衛子 長谷川傳十郎  
庄左衛門子 酒井彦五郎

右之面々御勘定所御奉出可相勤旨老中被仰渡之

今朝評定所式日寄合土井能登守出座也

松平丹後守 上使御使番御鷹之鶴被遣之  
水少将殿<sup>江</sup>為土産御刀掛被献之

廿三日 五嶋竹介

右幼少により御名代継目御禮進上之板倉石見守請取納之

右氣色快登 城有之  
酒井河内守

右風氣登 城無之  
大久保山城守

廿四日 御参詣御延引 御名代

増上寺 雅 樂 頭

大河内十大夫事御番可相勤旨  
奥増上寺傳通院歳暮之為御禮登 城

廿五日 堀田備中守

右眼病氣<sup>二</sup>付登 城無之  
御褒美被下候面々

時服三  
金三枚  
時ふく三羽折

同 同  
同 同  
同 同  
同 同

柳生對馬守  
中坊長兵衛  
曾我源左衛門  
仙石次左衛門  
本多作右衛門  
進 喜太郎  
石谷市右衛門  
御腰物奉行 内藤權九郎

御祐筆  
御被掛奉行  
久保吉右衛門  
神谷長五郎  
須田次郎太郎  
花井次左衛門  
小菅猪右衛門  
勝屋甚五兵衛  
浅井平右衛門  
坪内奎之助  
伊奈彦右衛門  
鶴殿甚左衛門  
西尾左太夫  
天野六郎左衛門  
横山甚右衛門  
浅岡勘兵衛

金廿兩

右之通被下之

右願之通御役御免也

御奉行目付十人  
金十兩ツツ  
御膳所  
御臺所組頭一人  
銀十枚  
仙石治左衛門  
銀五枚ツツ  
与力十人  
同心三十人  
金老兩ツツ  
同人組

廿六日

甲府殿御婚姻相済ニ付御礼  
金拾枚ツツ

真御太刀国編代金七枚  
金三十枚  
續式百把

右於 御座之間 御對顔進上之備前  
助真御腰物代金五拾枚拝領之

甲府中将殿  
戸田伊勢守  
岡野肥前守  
岡部出羽守

右一同 御目見也

御黒書院 出御継目之御礼有之  
行光御刀  
代金三十枚

相馬出羽守

右は為遺物差上之

右眼病快登 城

右今日登 城無之

繼目

金廿枚  
時ふく十  
銀馬代  
相馬采女  
奥州婦  
諏訪部文九郎  
中山勘兵衛

阿部對馬守 阿部美作守 安藤對馬守 西郷若狭守  
堀飛騨守 渡辺越中守 内藤出雲守 芦野民部  
太田原隼人 増山兵部少輔

箱者 病後 同断 駿府幕 秋元隼人  
大關勘右衛門  
甲中將家来 藤枝丹波守  
京都へ相越ニ付 時ふく四羽折被下

廿七日

小袖百  
銀百五十枚

右御婚礼相済ニ付為御進物被遣之

御進目付  
御從目付  
御膳御臺所与頭  
御膳御臺所与頭  
佐山庄左衛門  
阿部弥二兵衛  
外村忠左衛門  
有壁長右衛門  
井上三郎兵衛  
春日井与左衛門  
牛田甚五兵衛  
水野小右衛門  
上村傳右衛門  
大久保治右衛門

銀十枚

右之通被下之

銀五枚  
仙石治右衛門組与頭  
格人江  
同心三十人江

右盜賊改骨折申候ニ付為御褒美被下之  
今日御煤拂依有之於 御座之間酒并

河内守役之

小袖四  
美濃守 加賀守  
同三ツツ  
能登守 備中守  
酒井雅楽頭  
老中四人江  
若年寄式人江  
御側衆三人江

右如例年被下之

廿八日

如例月御兩殿御二人方登 城候處少々  
御風邪ニ被成御座候其上御年始近く候に  
よつて為御養生御表江 出御不被遊旨雅  
楽頭被傳之其外諸大名出仕之面々江も右  
之段老中申渡之

官位被 仰付面々

侍從  
侍從  
四品  
諸大夫  
由良新六郎 改信濃守  
山田次郎四郎二 改民部少輔  
松平龜之介 改肥前守  
本多平八郎 改中務太輔  
牧野老之介 改摂津守  
松平与十郎 改伊賀守  
相馬采女 改彈正忠  
木下宮内 改肥後守  
本多織部 改伊豫守  
松平頼母 改美作守  
松平巳之介 改筑前守  
小出右京 改大和守  
土方監物 改山城守  
松平傳三郎 改但馬守  
保科兵部 改兵部少輔

山城守子  
山田守子  
彈正忠子  
十五  
十四  
九  
十一  
十三  
十  
七  
八  
六  
五  
四  
三  
二  
一

一 布衣被 仰付面々

甲府殿城代  
渡辺平左衛門  
改長門守  
松平八左衛門  
改駿河守

時ふくニツツ  
大森様濃守  
酒井老岐守  
内藤上野介  
朽木和泉守

右被仰付之旨老中申渡之

侍從  
御小袖ニツツ

松平淡路守

御小姓衆  
御小納戸

戸田備後守

石原新左衛門  
櫻井藤兵衛

石川細阿弥  
大岡忠右衛門

大久保山城守  
稻葉出羽守

柴田和泉守  
酒井老岐守

青山信濃守

お桜

川崎

岡山

尾上

堀山城守

松平傳左衛門  
大久保兵九郎

同市郎右衛門  
坂本小左衛門

須田市兵衛  
甲斐庄三郎右衛門

永倉弥阿弥

右之通被下之

金三十兩 弥阿弥  
廿兩 才阿弥

三十日

御兩殿  
御三人方  
松平讚岐守

右歳暮之御禮として登城謁老中也

右之通被下之

小袖三  
羽折  
金三枚ツツ

右奥方御普請ニ付被下之

金廿兩  
布衣

右之通被 仰付之

武千俵  
千俵宛

右之通御加増於 御前被下之

御加増  
百俵ツツ

右之通被下之

金三枚  
時服二  
金五枚  
以下欠

右被下之類ニ付細阿弥被仰渡之

金三十兩  
金七兩  
金三兩

稲垣数馬 四

林藤四郎 一

村瀬伊左衛門 七

松平左門 十一

戸田又兵衛 十三

中山平右衛門 十

青山善兵衛 九

山下五郎右衛門 八

有馬宮内 六

加藤兵助 五

細井金五郎 十四

市岡左太夫 十五

松平左太夫 三

榑原采女 二

三浦八兵衛 十六

小嶋介左衛門 十七

大岡忠左衛門 十式

半井驢庵

鍋嶋加賀守

右依病氣願之通隱居被仰付家督

無相違息紀伊守江被下之旨同姓丹後

守江老中被仰渡之

内藤若狭守

土井能登守

堀田備中守

右四品被 仰付之

奥若年寄御側ニ時服被下之

廿九日